

ウッディチキン / 静岡例会

「 定例会レポート No.96 」

日 程	2014年7月9日(水)
会 場	フリーエース美容学校 〒426-0067静岡県藤枝市前島1-7-10 Bivi藤枝2F ホームページ http://www.free-ace.jp
参加者数	約100名
講演会内容	PM7:00~9:00 ・静岡支部長挨拶 ・静岡支部活動報告 ・ウッディチキン活動報告 伊藤豊 ・富田江里子様講演 「フィリピンの小さな産院で学んだこと」
親睦会	PM9:30~ 約60名



ウッディチキン事務局
作成：伊藤ちひろ



《開会挨拶》



<司会進行>

- 山口翌未さん
- 木下小実さん
- 藤村亜邦子さん

<開会挨拶 静岡支部長>

- 渡辺菊人さん



《静岡支部活動報告 代表3名》

—思いをもって結果を出す—

ラサ 石川さん 今年4月にヘアヒーリングラサに入社し、シャンプー指名10名をもらうという目標を立てました。先輩方にアドバイスをもらい、また自らお客様との接点を広げ、フェイスブックを始めるなど情報発信を積極的に行いました。人対人の人間関係を築くということ、どちらかが上ではなく一人間として触れ合うことで、新しい価値観や自分を発見することができることを目指しています。スタイリストデビューしたらすぐ結果を出せるよう頑張りたいと思います。ウッディチキンではたくさんの方の事を学ぶ機会を設けていただき大変感謝しています。



アンドエー セレンさん 去年の12月にアシスタントで転販100万円を達成することが出来ました。



100万円スタイリストになるには店販の数などが大事になると知り目指し始めました。どんな人にも平等に商品を伝えること意識してきました。誰にでも伝えることで自分の足りない事を発見したり、相手によって変えない事は大事だと感じました。また、買われなくても落ち込まないこと、自分でも商品を買って使いよいところ伝えることが大事だと思いました。人の財布と自分の財布を一緒にするなということ、人はそれぞれ価値を感じれば払うと思うので高いかなと心配するのは失礼かなと思いました。なにも知らない1年目に達成させたいということがモチベーションの元です。人の気持ちを感じ取るということを鍛えることでお客様の気持ちを汲み取ることに繋がると感じています。先輩や周りの支えてくれた人に感謝を忘れずに今年の12月は150万円達成します。

ヒュッケ 前島さん 25歳までに100万円スタイリストになることを掲げています。それに向けての活動は笑顔流のハガキを、モデルに来てくれた方にお礼として出すことを決めていました。どのように感謝を伝えるかスタイリストなっても来てもらう方法を考えた結果作りました。スタイリストになってからハガキを出すのを止めていたのですが、指名が伸び悩むなどしていたのですがまたハガキを出し始め最高リピート率を60%まで上げることが出来ました。ハガキの裏全面に言葉を書いていたのがスタイリスト来店時期や感謝の言葉を入れることや他のハガキと混じらないよう色をつけるといった工夫をしました。お店としては5周年に手作りのバスゴムを作りおはじきを入れ色分けでクーポンを入れるなど来店者の工夫をしています。テーブル会計にして次回提案をしっかりと出来るよう力をいれています。



《 ウッディキッチン活動報告 》

伊藤代表より



- ・ウッディキッチンの会は11年前に発足し、6年前にNPOになりました。
- ・理念は心を磨くこと、得を積むことです。
- ・東日本大震災以降、東北の職場も家も亡くした方々のためにキズナサロンなどの支援を行ってきました。
- ・去年の募金は1000万円集まりました。
- ・最近土地の価格や大工さんの工賃も値上がりして今まで出来ていた絆サロンの出店が困難になってきました。
- ・福島の方も原発などで復興が進んでおらず、老人や子どもの支援をしたいということで集会場を作るために500万円を支援しました。
- ・仙台で両親を亡くした子達の施設にも200万円寄付をしました。
- ・ということで、最近としては合計700万円の寄付をしました。

- ・またフィリピンのボランティアカットやフィリピンの孤児院の子どもたちが職に就けるようハサミノチカラの活動も力を注いでいきます。
- ・堀口さんから富田さんを紹介いただき、産院を運営されている富田さんの診療所を訪れました。
- ・今年の11月の沖縄ウッディを予定変更して、今回僕たちが先日行ったルートで幹部の方を対象にして11月12～15日にフィリピン3日間の視察ツアーを予定しています。
- ・来年からスタッフの方たちにも2回ほど参加して頂ける様に準備中です。
- ・こうして縁のある方に将来助けられることもあります。
- ・全国の皆さんご協力お願いします。



【 富田江里子様講演 】

テーマ「フィリピンの小さな産院で学んだこと」

<プロフィール>

医療格差の激しいフィリピンで、14年前にバルバナバクリニックを開業。以来365日24時間訪れる様々な患者と全力で向き合ってきた。診察料は無料。「失われる生命をごもつともない訳のもとで見放すより、出来る範囲で失われないように努力する。私が今まで行ってきた事の基礎はそこにある。——これからも活動が続けられるかどうか明言できないが、自分に出来る事がある限り、道を求め続けようと思う」
富田先生 著書「フィリピンの小さな産院から」抜粋



はじめに

- ・富田さんの紹介ビデオで始まりました。
- ・富田さんの診療所で見ておられる水頭症の赤ちゃんのメイタンくんの様子や、メイタンくんの両親の様子が上映されました。
- ・今見てもらったメイタンは水頭症で頭が圧迫され、頭が痛くてずっと泣いています。
- ・治療には70万円が必要となり、治療のため資金を集め始め30万円貯まった時、伊藤代表と出会うことが出来て寄付を頂き、手術することが出来ました。
- ・皆さんのおかげで、今は元気になり笑顔を見る事も出来ています。ありがとうございました。

可哀想ということ



- わたしはフィリピンで小さな診療所をしています。
- 可哀想を売りにしたくないと考えています。
- 可哀想を売りにするというのは、嘘は言わないけれど誤解を招くような表現があるということです。
- “ワクチンがこれだけあれば何人が救えます。ワクチンは何円でこれだけ買えます。”といった言葉を使いますが、ワクチンが足りないとは一言も言っていません。
- 貧困問題が解決しないのは情報が正しく伝わっていないからです。
- 可哀想を売りにして支援をもらおうと可哀想が商売になってしまいます。
- 医療があれば世界は救えると思っていましたが、医療が救えるのはお金がある人だけでした。
- 貧困がなぜ起きているか知る人がいなければ問題は減っては行きません。
- 相手を知ることでなにが必要なのか知ることです。
- お産も家で普通に生まれ、医療は必要ではありませんでした。
- 自分の中での常識も世界に必要な常識ではなかった。
- 途上国は可哀想だと思ってくれる人が多いと国連など組織が良く回ります。
- 私たちは相手のことを知らないといけないのに知らせない組織がいることも覚えていてください。

食事と情報について

- 伝統的な食事や生活をしている人々は戦争や干ばつ、天災がない限りは風邪や結核などのベーシックな病気にしかかかりません。
- 日本人に多い成人病や癌などはありませんでした。
- フィリピンでも病気の質が変わってきており、わずか14年間でがん患者が増えました。
- 清潔な保ち方もキレイにしすぎると病気になりやすくなります。
- 娘はインターナショナルスクールに通っていますが、ご飯を食べるときでも日本人だけがアルコール消毒を行い、髄膜炎が流行った時もかかったのは日本人だけでした。
- 人間の体には常在菌があり、それが免疫を作っています。
- 不必要な清潔は体を弱めます



- フィリピンの子どもたちは免疫が出来ているので裸でいても病気をしません。
- フィリピンの子どもたちに会ったら、服がなくても強い体でいることを褒めて上げて下さい。
- 褒められるというチャンスがないので褒められると喜びます。
- 自分の知っていることは何か違うのかしらと思う人が増えることで世界を変える一歩になります。
- 経済のために体に悪くても売り出されている食べ物があります。
- みなさんはラーメンを1日に3杯も食べれば体によくないことがわかっていますが、フィリピンは一気に文明化し、政府がいいものだと言っているのでお金があれば買って食べています。
- 病気が増えています。
- 病気になった人を支援している限りはたちごっこになります。
- なる前に防いでいくしかありません。
- 「これを食べてはいけません」など、一人一人が言うことで何か変わるかもしれません。
- 私たちは何がよいか知ることが出来ます。
- 途上国の子は都合のいい情報しか知ることができません。
- 分かる人が理解しなければいけません。
- 自分たちから食べ物を変えてみてください。

フィリピンの子供と親

- ・ゴミ山にいる子どもは可哀想だと思っている日本人は多いですが、ゴミ山に入る事で1日生きていくことができます。
- ・ゴミ山はフィリピンの人達にとっては宝の山です。
- ・物事をどちらのサイドから見るかということが大事です。
- ・フィリピンでは大人が大人らしくありません。
- ・お母さんだったら赤ちゃんを守って行かなければならぬのに、親が子を人身売買してしまうことがあります。
- ・赤ちゃんが売られていく事を見て育った子供はそう育っていきます。
- ・売春をして生きてきた子も自分の子にさせるようになります。
- ・そういう生活しかしてきたことがなく愛情も受けてこなかったのでは人は見てきたようにしか生きることが出来ません。
- ・これから日本語でも言葉には魂が宿るので愛情を伝えてあげてください。
- ・妊娠しても子供を育てられない子たちはお腹を殴って子をおろそうとします。
- ・妊娠しても中絶したらいいやということを当たり前としてきています。
- ・そんな子たちを変えるには人と人の繋がりしかありません。
- ・人は愛情のある関わりでしか育てません。
- ・愛情があってその上で学習することができます。



その場で出来る国際協力

- ・現場に来なくても国際協力は出来ます。
- ・世界のゴミの焼却炉の半分は日本にあります。
- ・たくさん買ってたくさん捨てる生活をみなさんはしています。
- ・インドネシアで津波があったとき3万人の人が亡くなりましたが、以前まで海岸にあったマングローブがあれば被害は1万人だったろうと言われていました。
- ・マングローブのあった場所は日本に輸出しているエビの養殖場でした。

- ・考えて食べることや無駄な消費を止めることが国際協力につながります。
- ・みなさんの暮らしがそのまま世界に影響していることがたくさんあります。
- ・愛情の反対は無関心だというマザーテレサの言葉があります。
- ・色々な言葉に関心を持ってください。
- ・誰にでも今日から出来る国際協力は自分自身を愛してあげること、愛していることを人に伝えていくことです。
- ・愛されて育った人は人に優しくしてあげることが出来ます。
- ・「今日も愛しているよー！」と家族に伝えるようにしてください。
- ・本日は、ありがとうございました。

おわりに

- ・最後にまたフィリピンの映像を見て終了となりました。

ありがとうございました



親睦会の様子です。



ではまた次回、
サマーカレッジ（8月20～22日）でお会いしましょう。